平成27年度　野外彫刻鑑賞アートウォーキング

初冬の水無川沿いを歩む芸術鑑賞

カメラスケッチ

平成２７年１２月１０日（木）開催

主催：秦 野 市

協力：秦野市観光ボランティアの会、彫刻愛し隊

【行　程】

参加者１７名（一般公募参加者１１名・彫刻愛し隊員６名）
ハイキングコースガイド：内田正夫、齊藤静朗（秦野市観光ボランティアの会）

時　間	内　容
10:00	渋沢駅改札前集合・あいさつ
10:05～10:15	渋沢駅北口：「浮くかたち-赤」「MY FAMILY」 「風景の器」
10:15～10:40	ウォーキング（渋沢駅⇒桜土手古墳公園）
10:40～11:00	桜土手古墳公園見学
11:00～11:20	ウォーキング（桜土手古墳公園⇒カルチャーパーク）
11:20～12:05	陸上競技場前：「窓」 文化会館前：「LOCUS IN THE SKY 87」 「ふたたび」 図書館前：「Od octave-2」「石・もの性の崩壊」 「ROPE Ⅰ」「FIGURES-LINE」 「悠Ⅰ」「日食石」「紙の塔」 総合体育館前：「INTERSECTION」
12:10～12:40	中央こども公園ピクニック広場で昼食・トイレ休憩
12:30～13:00	ウォーキング（中央こども公園⇒秦野市役所）
13:00～13:15	秦野市役所：「丹沢の木」
13:15～13:30	ウォーキング（秦野市役所⇒秦野駅北口）
13:30～14:00	まほろば大橋：「COSMIC RING」「生命の詩」 しもかわらぶち公園：「君を待つ風」 秦野駅北口：「地球環境保全像」「母子像」 「あなたと…」
14:00	秦野駅解散

【カメラスケッチ】

午前10時、渋沢駅に集合後、観光ボランティア・彫刻愛し隊等を紹介

渋沢駅北口駅前広場に設置されている野外彫刻（3基）を鑑賞

天候に恵まれ、素晴らしいウォーキング日和

観光ボランティアによる桜土手の由来説明

桜土手古墳公園に到着・見学

舟つなぎの松に到着・解説

カルチャーパーク内に設置されている野外彫刻（１１基）を鑑賞

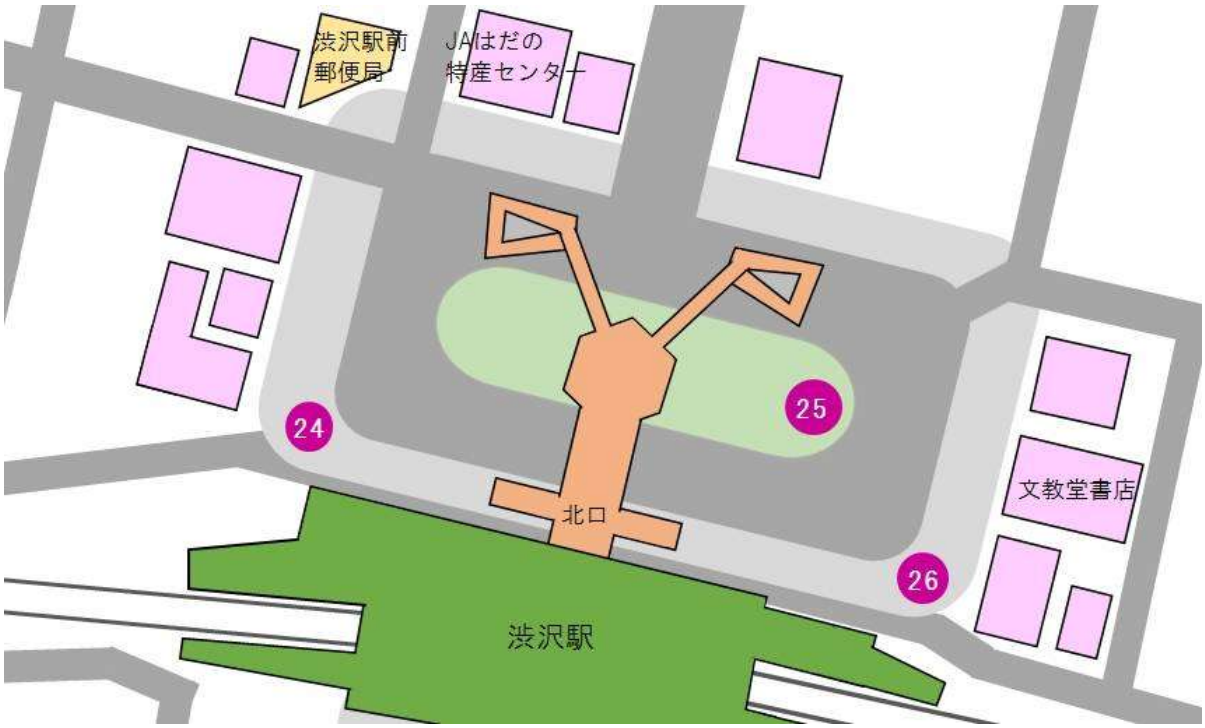
水無川緑地をウォーキングし、秦野市役所到着。構内の野外彫刻（1基）を鑑賞

再度水無川緑地をウォーキングしながら、矢倉沢往還・秦野名水の歴史について解説

まほろば大橋・秦野駅北口広場周辺に設置されている野外彫刻（6基）を鑑賞後、解散

【野外彫刻の紹介】

《渋沢駅北口広場》



「浮くかたちー赤」

作家：植松　奎二(うえまつ　けいじ)

～作家のコメント～

　円錐体の先端、そこには一つの静止の時間が新しいエネルギーの場が生み出されている。地球の引力あるいは重力、支えと重量、重さとバランス、物の存在のあやうさがある。赤い円錐体は重力よりときはなたれ、空間に浮遊していく感じがする。

取得経過：ハミングテイルしぶさわ彫刻展

設　　置：平成6年10月

素　　材：ステンレス・スチール、鉄石

「風景の器」

作家：横山 徹(よこやま とおる)

～作家のコメント～

この作品は、丹沢の風景を映し出す器です。雨水を石肌に受け止めることにより、我々に一瞬の夢を与えてくれることと思います。また地上から見上げるとよく磨かれた曲面には駅の風景を映し出してくれるでしょう。空中に浮かぶ水溜まりをイメージしてみました。

取得経過：ハミングテイルしぶさわ彫刻展

設　　置：平成6年10月

素　　材：御影石

「MY FAMILY」

作家：中岡 慎太郎(なかおか しんたろう)

～作家のコメント～

この世界に暮らす人間は、みな家族だと思います。人間には暖かい愛情に満ちたつながりが不可欠です。

取得経過：ハミングテイルしぶさわ彫刻展

設　　置：平成6年10月

素　　材：花崗岩

《カルチャーパーク》

「LOCUS IN THE SKY 87」

作家：大隅 秀雄(おおすみ ひでお)

～作家のコメント～

空間に漂わせた一対の円弧状のフォルムの動きを、風の流れに呼応させて、自然との対話を、時の流れとともに、軸石化できないだろうか。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和63年5月

素　　材：ステンレス、真鍮、銅、鉄
　　アルミニウム、ベアリング

「ふたたび」

作家：井上 玲子(いのうえ れいこ)

～作家のコメント～

はてしなく続く大自然の営なみと共に、くりかえされる生きもの達の生命力の粘り強さは素晴らしい。今。急速に展開していく現代のうねりの中にあって、最も人間らしく、素朴で愛にみちた時代へ回帰を祈る想いがつよい。そんな原風景の中の一点でありたいと思っています。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和63年5月

素　　材：アルミニウム

「Od octave-2」

制作者：若江 漢字(わかえ かんじ)

～制作者のコメント～

オド・オクターブ・２は大地と天空の間に在って、大自然に潜むエネルギーを受信し、その不可視のエネルギーを疑似的に可視体験させる装置である。

この舟は天空から電磁波を受信し、大気の微妙な振動までもエネルギーとしてとして取り込み、蓄積されたこれらエネルギーが臨界点に達した時、ストッパーははずれされ、舟は天空へと解放される。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和63年5月

素　　材：コールテン鋼、ステンレス

「石・もの性の崩壊(for Pavement)」

制作者：岡本 敦生(おかもと あつお)

～制作者のコメント～

地核から切り離された大きな石の塊を割る。そして徐々に小さな石コロへと分割する。１個の石塊が崩壊していく過程に、石畳の道もあるようである。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和62年9月

素　　材：白御影石

「ROPE Ⅰ」

制作者：岸 豊治(きし とよはる)

～制作者のコメント～

日常的風景の大地に立つ巨大な超日常性の現実への拡大。その非現実的存在が日常的風景と同化し、現実存在となる時、私は己の影を失くし、もう一つの空を仰ぐ。日常的風景の中で・・・・・・

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和62年9月

素　　材：ステンレススチール

「FIGURES-LINE」

作家：松尾 光伸(まつお みつのぶ)

～作家のコメント～

風景の中の彫刻を１点透視図的よりも、多視点から環境としてとらえたい。作家個有のメッセージを内存させず鑑賞者が自由にメッセージを置き換えることの出来るユニバーサルな空間構成をめざしている。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：平成3年2月

素　　材：セラミック、ステンレス

「悠　Ⅰ」

作家：速水 史郎(はやみ しろう)

～作家のコメント～

丹沢の雄大な風景の中にはシンプルなフォルムが良い。こんな発想からこの彫刻は生まれた。フォルムを整理し不用な部分を消去しながら順々と自然体に近づくのがうれしく、仕事に張りが生まれた。原石の大きさから生まれる接合部分もかくすことなく見せることにした。これも自然体の考えからくるものである。この彫刻が丹沢の風景の中でどんな生き方をするか、私のたのしみである。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和62年9月

素　　材：黒御影石

「日食石(1987～2000 A.D.Ⅲ)」

作家：濱坂 渉(はまさか わたる)

～作家のコメント～

〈日食石：1987～2000Ａ．Ｄ．・Ⅲ〉は、今世紀中におこる日食（日蝕）のデータをもとに、作品の中央部の大理石の円錐によって生じる影の位置と方位角の一定の法則によって立体化したもので、丹沢の北緯（35°22’）、東径（139°14’）に応じて彫刻の形態は決定されている。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和62年9月

素　　材：大理石、花崗岩

「紙の塔」

作家：山懸 壽夫(やまがた としお)

～作家のコメント～

皺のよった紙で造られたフォルムは、ある現実の世界を、異った価値のものに転化させてくれる。メタモルフォーゼではなく、価値の転化そのものをめざした仕事をしたいと願っている。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和62年9月

素　　材：キャストブロンズ

「INTERSECTION」

作家：内田 晴之(うちだ はるゆき)

～作家のコメント～

最近の野外での仕事は、反重力空間、それを内包した彫刻、という事が基本的な考え方になっています。今回は赤く塗られた部分、それと交差し斜めに静止した四角柱で表現しました。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和62年9月

素　　材：ステンレス、鋼板

マグネット、塗料

「窓」

作家：北島 一夫(きたじま かずお)

～作家のコメント～

逆三角形の空間に美しい丹沢の山々が融合してまた表面に刻まれた縦横斜めの溝が光のバロメーターとして日ごと年ごとに豊かな表情を造りだすことでしょう。そして、都市景観を活性化させ、人々の心に潤いを持たせることができれば歓びです。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和62年9月

素　　材：花崗岩（白糸）

《水無川緑地沿い》

「丹沢の木」

作家：空 充秋(そら みつあき)

～作家のコメント～

厳しい風土に根強く生きる人の姿や文化・社会の変遷を、地上に直立する幹から枝を生じ育み、雪で枝を垂れながらも強く生き伸びていく丹沢の木々に託して、白と黒の御影石を使い、360 度回転しながら螺旋状に組み、積み上げたものである。

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：昭和63年5月

素　　材：白、黒御影石

《秦野駅北口広場周辺》

「君を待つ風」

作家：会田 富二男(あいだ ふじお)

～作家のコメント～

ただひたすら良いものを造りたいと思って日々を送っている。良いものとはどうゆうものなのか知らないで手さぐりの日々である。

時には天にも昇らんばかりの気になり、３日もすると地獄を這い廻る。もはや人の慰めなど何の薬にもならないが、時に味わう３日間の快感が僕を石の前につれてゆく。明日は天国で天女とたわむれるのか、はたまた三途の川原で石を彫るのか・・・・・・・・・。

取得経過：夢のかけ橋彫刻展

設　　置：平成元年４月

素　　材：黒御影石

「COSMIC RING」

作家：横山 徹(よこやま とおる)

～作家のコメント～

作品のフォルムは、自分を表現するための一つのメッセージにすぎない。重要なのは、素材に対して取り組む姿勢であり、そのプロセスだと考えます。自然のままの石はすばらしいが、それだけでは満足できない。薄くはぎ取り、穴を穿つ、そのような一見無駄な行為を通すことより自分の存在を確かめる。瞬時に生れたメッセージを石の中に永遠に封じ込める時の緊張感がたまらなく好きです。

取得経過：夢のかけ橋彫刻展

設　　置：平成元年１０月

素　　材：黒御影石

「生命の詩」

作家：西巻　一彦(ひしまき　かずひこ)

～作家のコメント～

　作品だけが一人歩きすることなく、橋を渡る人々が作品と語り合えるようなものにしたい。

取得経過：夢のかけ橋彫刻展

設　　置：平成元年10月

素　　材：本小松石

「地球環境保全像」

作家：後藤　良二(ごとう　りょうじ)

取得経過：秦野ロータリークラブ

　　設立30周年記念に伴う寄附

設　　置：平成3年3月

素　　材：本小松石

「母子像」

作家：佐藤　助雄(さとう　すけお)

取得経過：遺族からの寄附

設　　置：平成元年9月

素　　材：ブロンズ

「あなたと・・・（時は流れて）」

作家：武荒　信顕(たけあら　のぶあき)

～作家のコメント～

　もっと近づいてごらんなさい、心を透明にして！！青い空。白い雲。緑の森。Ｒｅｄをいれてさしあげましょうか？見上げてごらんなさい、時は流れて行きます。あなたと・・・・・・

取得経過：丹沢野外彫刻展

設　　置：平成2年9月

素　　材：鋼板、合成樹脂ペイント

　　ステンレス、ボールベアリング

【見学場所の紹介】

「桜土手古墳公園」

桜土手古墳群は、秦野市の中央部を流れる水無川の中流域に位置し、35 基の古墳が確認されています。この古墳群は、7 世紀後半に造られたもので、すべてが円墳で構成され、古墳群としては県内でも最大規模といわれています。桜土手古墳公園には、保存古墳 6 基と復原古墳 1 基があり、また、多くの出土品や模型、写真などが見学できる展示館もあります。

平成 4 年度、「かながわの公園 50 選」、平成 7 年度「かながわの博物館 50 選」に選ばれています。

「舟つなぎの松」

昔、弘法大師が船をつないだとされる松があった場所。現在その松は残っていませんが、代わりに石碑があります。
水無川に関する伝説の一端を知ることが出来る貴重な史跡です。

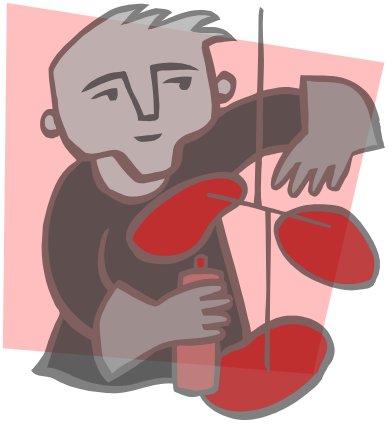
「矢倉沢往還」

秦野市内の矢倉沢往還は、秦野橋を通って善波峠へ続く

矢倉沢往還は江戸・赤坂御門から三軒茶屋、厚木、松田、御殿場を経て東海道・沼津宿に至る街道で、東海道の脇往還として機能しており、途中に矢倉沢関所が設けられていたことから【矢倉沢往還】と呼ばれていた。

元々は律令時代に開かれた機内と東国を結ぶ主要街道（古東海道）で、官道として機能していたが、鎌倉時代に箱根湯坂道が開かれ、さらに江戸時代になると箱根東坂 ・西坂が本道になり、裏街道という位置づけに変わってしまう。

しかし、江戸中期から庶民の間に大山講が盛んになると 、宿駅が整備されていた矢倉沢往還が参詣道として利用されるようになり 、大山阿夫利神社までの道を『大山街道』あるいは『大山道』と呼んでいた。



秦野市くらし安心部
市民自治振興課都市交流文化担当

電話番号：0463-82-5118（直通）
FAX：0463-82-6793